

精神科神経科

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 精神と身体の両面から患者をとらえることができる。
- 2) 診断と治療に関する技術を十分にそなえる。
- 3) 豊かな人間性をもつ。
- 4) 患者の人格を十分に尊重する。

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度～12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	3人	3人	1人	3人
研修期間	24ヶ月	24ヶ月	24ヶ月	24ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：0人

平成12年度：1人、研修した他科名：麻酔科

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度～12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	8人	6人	6人	7人

(3) 指導体制について

- 1) 研修期間は、一人の研修医に一人の指導医をつけマンツーマンで指導する。
- 2) 症例検討会を毎週1回行い、症例を通しての指導を行う。
- 3) 輪読会を毎週1回行い、文献的指導を行う。

(4) 研修の評価について

精神科独自の評価表を作成して評価

(5) 関連研修施設の現状

大分県立病院、厚生連鶴見病院

(6) 臨床教授

富永邦男（大分県立病院 精神医学科部長）

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況（平成9年度～12年度）

- 1) 精神保健指定医2名

(8) 学会認定施設の状況

日本精神神経学会では学会認定医制度を採用していない。

※今後の課題と改善策

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

- 1) うつ病の成因の解明と治療の改善
- 2) 不安障害の成因の解明と治療の改善

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名、講師 0名、助手 7名
 実験助手（非常勤職員を含む） 0名
 事務職員（非常勤職員を含む） 1名

(3) 研究領域と研究課題（対象期間：平成9年度－12年度）

主な研究課題名

- 1) うつ病の臨床研究
- 2) 不安障害の臨床研究

(4) 博士（医学）の学位の取得状況（平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	0名	1名	0名	0名

(5) 学会、研究会活動（シンポジウム、特別講演、学会役職等）

特別講演：

1) 第4回経皮治療システムシンポジウム

時間薬理学と治療

1997.1.25 福岡

永山治男

2) 第11回熊本自律神経研究会

時間薬理学から時間医学へ

1998.2.20 熊本

永山治男

3) 臼津医師会学術講演会

痴呆症の診断と対策

1998.2.27 大分

永山治男

4) 平成10年度大分県薬剤師会総会

生体リズムと薬物治療

1998.6.28 大分

永山治男

5) 第14回筑後地区うつ病研究会

季節とうつ病

1998.10.16 福岡

永山治男

6) 第329回北九州精神科集談会
うつ病における季節性について
1998.11.27 福岡
永山治男

7) 名古屋大学講演会
時間薬理学とその医学的意義
1999.01.01 名古屋
永山治男

8) 第39回日本心身医学会九州地方心身医学講習会
うつ状態と抗うつ薬の使い方
2000.01.29 大分
永山治男

9) 第97回日本精神神経学会総会
うつ病の薬物療法
2001.05.17 大阪
永山治男

シンポジウム：

- 1) 第4回日本時間生物学会
薬物反応性における概日リズムと概年リズム（シンポジウム：サーカディアンリズムの研究、創薬から治療薬へ）
1997.11.7 東京
永山治男
- 2) 第18回日本臨床薬理学会
精神疾患の時間治療（シンポジウム）：時間薬理と治療
1997.12.11 東京
永山治男
- 3) 第9回日本臨床精神神経薬理学会
精神科臨床における時間薬理学（パネルディスカッション：生体リズム学の応用により精神神経薬物治療は向上するか）
1999.10.08 大分
永山治男

学会役職（評議員、理事等）（平成9年度－平成12年度）	
日本神経精神薬理学会	永山治男（評議員）
日本生物学的精神医学会	永山治男（評議員）
日本精神科診断学会	永山治男（評議員）
日本臨床精神神経薬理学会	永山治男（評議員）
日本アルコール精神医学会	永山治男（評議員）
日本時間生物学会	永山治男（評議員）
日本神経精神学会	永山治男（評議員）

(6) 研究論文 (英文、和文) (平成9年度-12年度代表論文10編)

- 1) Nagayama H, Lu J-Q: Circadian rhythm in the response to intracerebroventricular administration of 8-OH-DPAT, *Brain Res*, 756, 92-95, 1997
- 2) Akiyoshi J, Isogawa K, Tsutsumi T, Katsuragi S, Kohno Y, Furuta M, Yamamoto Y, Yamada K, Fujii I: CCK-4-induced calcium mobilization in T cells of patients with panic disorder, major depression, or schizophrenia, *Biol Psychiatry*, 42, 151-154, 1997
- 3) Lu J-Q, Nagayama H: Circadian rhythm in the function of central 5-HT_{1A} receptors is endogenous in nature, *Cell Mol Life Sci*, 53, 224-226, 1997
- 4) Lu J-Q, Nagayama H: Circadian rhythm in the hypothermic response to serotonin 1A receptor agonist 8-OH-DPAT in rats, *Chronobiol Int*, 14, 267-273, 1997
- 5) Nagayama H, Lu J-Q: Circadian and circannual rhythms in the function of central 5-HT_{1A} receptors in laboratory rats, *Psychopharmacology*, 135, 279-283, 1998
- 6) Akiyoshi J, Yamauchi C, Furuta M, Katsuragi S, Kohno Y, Yamamoto Y, Miyamoto M, Tsutsumi T, Isogawa K, Fujii I: Relationship between SCL-90, Maudsley personality inventory and CCK4-induced intracellular calcium response in T cells, *Psychiatry Res*, 81, 381-386, 1998
- 7) Katsuragi S, Kunugi H, Sano A, Tsutsumi T, Isogawa K, Nanko S, Akiyoshi J: Association between serotonin transporter gene polymorphism and anxiety-related traits, *Biol Psychiatry*, 45, 368-370, 1999
- 8) Yamamoto Y, Akiyoshi J, Kiyota A, Katsuragi S, Tsutsumi T, Isogawa K, Nagayama H: Increase anxiety behavior in OLETF rats without cholecystokinin-A receptor, *Brain Research Bulletin*, 53, 789-792, 2000
- 9) Hikichi T, Akiyoshi J, Yamamoto Y, Tsutsumi T, Isogawa K, Nagayama H: Suppression of conditioned fear by administration of CRF receptor antagonist CP-154, 526, *Pharmacopsychiatry*, 33, 189-193, 2000
- 10) Isogawa K, Akiyoshi J, Hikichi T, Yamamoto Y, Tsutsumi T, Nagayama H: Effect of corticotropin releasing factor receptor 1 antagonist on extracellular norepinephrine, dopamine and serotonin in hippocampus and prefrontal cortex of rats in vivo, *Neuropeptides*, 34, 234-239, 2000

(7) 高度先進医療開発研究の現状

近赤外線光による脳血流の測定

※今後の課題と改善策

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

急性期の早期治療と、社会復帰の促進

(2) 診療実績 (平成9年度～12年度)

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	8,984人	10,485人	12,368人	13,426人
初 診 患 者 数	177人	238人	235人	232人
紹 介 患 者 数	70人	74人	79人	70人
入 院 患 者 数	10,367人	10,640人	10,052人	10,105人
平均在院日数	148.1日	182.4日	97.1日	90.4日
平均病床稼働率	94.7%	97.2%	91.5%	92.3%
死 亡 退 院 率	1.4%	1.7%	0.0%	0.0%
剖 検 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(3) 特殊検査・手術症例等

無痙攣電撃療法

(4) 特殊専門外来

ストレス外来

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

※今後の課題と改善策

4. 国際交流について (平成9年度～12年度)

(1) 国際医療協力体制

(2) 留学 (長期外国出張)

1) ジョーンズホプキンス大学 (アメリカ合衆国)、平成12年9月～平成14年8月、1名

(3) 外国出張 (国際学会活動など)

1) 平成9年

6th World Congress of Biological Psychiatry

5人、フランス

27th Annual Meeting Society for Neuroscience,

2人、アメリカ合衆国

2) 平成10年

21st Congress of Collogium Internationale Neuro-Psychopharmacologium, 英国、4人

3) 平成11年

なし

4) 平成12年

なし

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的	留 学	留 学		
受入人数	1名	1名		
出身国名	中 国	中 国		
滞在期間	1年	3ヶ月		
費用負担	国 費	国 費		

※今後の課題と改善策

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度～12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会
なし

※今後の課題と改善策

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研 修 会 等 の 名 称	開催頻度	参加人員	発表形式	認定医資格継続適合の有無
大分Brain Science Conference	1	80	口演	
大 分 精 神 科 集 談 会	2	60	〃	無

※今後の課題と改善策

7. 診療科の特色

- （1）特にうつ病に重点をおいた診療研究を行っている。
- （2）そのほかに、パニック障害・ストレス障害を重視している。
- （3）地域の中核的な精神科医療機関として、あらゆる精神障害を受け入れている。

8. 将来展望

- （1）地域関連病院との連携の強化
- （2）大分県下における研究会活動の活性化
- （3）各医師の専門性の確立